令和６年度１２月園だより

段原みみょう保育園

子どもの視線の先にある思い

比治山の木々も、あっという間に赤や黄色に染まり、冷たい風に吹かれて舞う落ち葉の様子に冬の訪れを感じています。これからの季節、空気が乾燥し、インフルエンザなどの感染症も流行しやすくなります。手洗い、うがいはもちろんですが、水分補給も細目に行っていきながら、体調管理に気をつけていきたいと思います。ご家庭でも「早寝、早起き、朝ごはん」の生活リズムを大切に、一緒に寒い冬を乗り越えていきましょう。

さて、１１月は澄んだ秋空のもと、子どもたちと園外に出る機会をたくさんもちました。乳児組さんも、マックスバリューの側にある鯉の池まで、保育者と手をつないでお散歩。いつもとは違う景色の中、見るものすべてに興味津々で、お空を見上げたり、お花を見つけたり、“早くはやく”といわんばかりの可愛い足どりは、わくわくする気持ちが溢れているようでした。そんな中、池に到着し、ちょこんと座って鯉を見つめていると…。目の前の壁に黒い物体が…。それに気づいたＫちゃんが、手を動かすと、なんとその黒い物体も動きだしたのです。Ｋちゃんは、不思議そうな表情で、自分の手を広げたり、振ってみたり…。もちろんこの黒い物体の正体は、暖かな太陽の日差しで映し出されたＫちゃんの影です。大人にとっては、日常の中での当たり前の自然現象ですが、Ｋちゃんにとって、影の発見は、驚きや不思議さはもちろん「なんでだろう」という好奇心と様ざまな気持ちを感じさせてくれているようでした。

今、世界で教育の在り方が大きく変わろうとしています。日本でも、教えられた内容をただ覚えるのではなく、目の前の起きた問題に、どうしたらうまくいくかを考えていく力が求められています。乳幼児期は、日々の生活の中で様々なことに興味をもち、自ら関わり、試行錯誤しながら面白さを感じ、追求していく。まさに、Ｋちゃんの影に気づき、なんでだろうと考え、手を動かしながら繰り返し何度も試している姿は、これからの時代を担う力の原点なのです。そして、大人が思う以上に子どもたちは様々なことを感じ考えています。だからこそ、子どもの視線の先、いつも何気なくやってること、一つひとつに意味があり、その積み重ねがその後の育ちを支える土台となっていくのです。私たちも毎日の生活の中で、子どもたちが何かを思い、感じている瞬間を大切に、あたたかなまなざしを向けて、「なんだかおもしろそうだね」と心に寄り添い、子どもが考えていることを汲み取れる存在でありたいと思います。

さて、今月の２１日（土）は幼児組さんの生活発表会です。子どもたちは、「発表会で、この歌が歌いたい」「踊りと劇どっちにしようかな？」と、保護者の皆さんに見てもらうことを楽しみにしています。ぜひ、当日はもちろんですが、発表会までの過程での子どもたちのわくわく感も、感じていただきながら、子どもの育ちを共に喜び合っていきましょう。

園長　　岩槻　由紀